

2005年度同志社大学大学院
司法研究科法務専攻（法科大学院）専門職学位課程
入学試験問題　〔小論文〕

第1問

次の文章は、『論座』2004年8月号に掲載された玄田有史氏の論説である（ただし、原文を一部改めた）。これを読んで、ニートが増える理由を複数挙げ、その中で著者が最も重視する理由を特定せよ。さらに、その特定した理由を前提として、具体的な予防策を考え、論ぜよ。（全部で800字程度）

【論説文の掲載は、省略。】

出典：玄田有史「自己実現疲れ、個性疲れの若者を支援せよ」、『論座 No.111』，P36-41，2004年8月

第2問

次の課題文を読み、それに続く問いにそれぞれ答えよ。

【課題文の掲載は、省略。】

出典：日置弘一郎『「出世」のメカニズム』（講談社選書メチエ，1998年）から抜粋。なお、出題にあたり原文を一部改めた。

問1　大学入試において「まぐれ」が生じた場合と、「ドングリの背比べ」が生じた場合とで、学生の顕在化した実績の分布にいかなる相違が出てくるのかを、本文の論旨に即して400字程度で説明せよ。

問2　筆者は下線部において「大学入試が機能していない」との見方を紹介しているが、課題文の文脈において大学入試制度を改善すべき点の有無と、その内容につき1200字程度で論ぜよ。その際には、大学入試制度が追求すべき目的について自己の見解を明らかにし、それに立脚すること。